2-2. 外来種対策基盤に係る取組

2-2-1. 外来種に関する普及啓発の検討

(1) パンフレット制作

沖縄県外来種対策指針および対策すべき外来種について、県民に広く周知するため、昨年度業務で作成したイラスト（紅型）を用いたパンフレットを作成し、市町村や県内博物館等に送付するとともに、イベント等で来場者に配布した。また残りの 700 部余りは自然保護課に納品した。次ページ以降に作成したパンフレットを示す。

表 2-2-1.1(1)　パンフレット配布先一覧

市町村	配布先	配布部数
	各市町村（自然保護課より送付：5 部×41 市町村）	205
博物館等		
東村	東村立山と水の生活博物館	20
本部町	本部町立博物館	20
本部町	沖縄美ら海水族館	20
名護市	名護博物館	20
宜野座村	宜野座村立博物館	20
恩納村	恩納村博物館	20
読谷村	世界遺産座喜味城跡　ユンタンザミュージアム	20
沖縄市	東南植物楽園	20
沖縄市	沖縄こども未来ゾーン　沖縄こどもの国	20
沖縄市	沖縄市立郷土博物館	20
宜野湾市	宜野湾市立博物館	20
西原町	琉球大学資料館（風樹館）	20
那覇市	沖縄県立博物館・美術館	50
南城市	おきなわワールド文化王国・玉泉洞	20
久米島町	久米島博物館（旧久米島自然文化センター）	20
久米島町	久米島ホタル館	20
南大東村	南大東村立ふるさと文化センター	20
宮古島市	宮古島市総合博物館	20
竹富町	黒島研究所	20
与那国町	アヤミハビル館	20
環境省施設		
国頭村	やんばる野生生物保護センター	20
石垣市	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター	20
竹富町	西表野生生物保護センター	20

表 2-2-1.1(2)　パンフレット配布先一覧

市町村	配布先	配布部数
イベント		
宜野湾市	夏休みこども自由研究 2019	約 300
石垣市	エコライフ 2019	約 150
宮古島市	エコの島コンテスト	約 100
その他		
	関係者への配布等	約 30

図 2-2-1.1　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）表紙

沖縄県外来種対策指針

沖縄県を含む琉球列島は、多くの島々から成り、日本のなかでも生物多様性の高い地域です。海で隔てられたことによって、島の生物は独自の進化を遂げ、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコなど数多くの固有種が誕生しました。また、沖縄県の植物は、面積当たりの種数が日本本土の45倍ともいわれています。

一方、沖縄県のような島しょの生態系は、外来種の侵入などの環境の変化に対して脆弱です。すでに多くの外来種が沖縄県に侵入・定着し、その一部は生態系に大きな影響を及ぼしています。

外来種とは、人間活動によって本来の生息地以外に持ち込まれた生き物のことです。外来種は他の生き物を食べたり、住む場所を奪ったりすることで、侵入した地域の生態系にさまざまな影響を及ぼします。また、毒をもった外来種が人を刺すなどの健康被害や、畑を荒らすなど農林水産業への影響もあります。

こうした外来種の対策を総合的・効果的に推進する方針を示し、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止するとともに、沖縄県の生物多様性を保全するため、平成30年6月に「沖縄県外来種対策指針」が策定されました。

やんばる地域の固有種ヤンバルクイナ
マングースの影響で生息数が減少した

指針の目的

沖縄県の生物多様性を保全していくためには、外来種による生態系や人の生命・身体、農林水産業への影響を最小限に抑えることが必要です。この指針は、沖縄県の特性と現状を踏まえた総合的な対策を実施するための方向性を示すことを目的としています。

目指す将来像

沖縄県への侵略的外来種の侵入が予防され、すでに定着している侵略的外来種については対策が実施され、外来種による生態系等への影響が最小限に抑えられ、人の生命・身体、農林水産業への被害が防止されるとともに、生物多様性が保全されている。

実施する施策

- 対策を行う外来種のリストを作成し、優先順位を決定します。
- 行動計画を策定します
- 重点対策種に対して、防除を中心とした対策を実施します
- 重点予防種の定着を防止するための対策を実施します
- 産業管理外来種の適切な管理を促すための啓発を行います
- 外来種対策の普及活動と認知度調査を実施します
- 対策を行うための体制を構築します

図 2-2-1.2　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）p.1（指針概要）

指針が対象とする外来種

この指針では、国外からの外来種だけでなく、国内や県内からの外来種も対策の対象とします。

1 国外からの外来種

国外から持ち込まれた生物は、生態系に大きな影響を及ぼすことがあります。

1910年に沖縄島に導入されたマングース
在来種を捕食して生態系に影響を与える

2 国内(県外)からの外来種

国内の生物であっても、県外から持ち込まれた生物は、生態系に影響を及ぼすことがあります。

九州などから導入されたニホンイノシシ
ウミガメの卵などを捕食し生態系に影響を与える

3 国内(県内の別の島)からの外来種

沖縄県では島ごとに独自の生態系が成立しており、たとえ県内であっても、別の島から持ち込まれた生物は、生態系に影響を及ぼすことがあります。

八重山地域に生息するヤエヤマセマルハコガメ
宮古島や沖縄島で移入個体が見つかっている
リュウキュウヤマガメとの交雑が確認されている

対策の方針

1 対策基盤の整備

外来種対策を効果的に推進していくためには、以下のような対策の基盤が不可欠です。

① 県民の外来種問題への理解
② 外来種に関する情報
③ 外来種対策に関わる人材

これらの基盤を整備する取組を進めます。

住民参加型のツルヒヨドリ駆除作業
県民の外来種への理解を深めるため、地域住民も参加したツルヒヨドリの駆除を行った

2 侵入の防止(予防)

外来種対策で最も重要な取組は、外来種を本県に侵入・定着させない予防の取組です。沖縄県に侵入する外来種には、「人間が意図的に導入する外来種」と「物資に混入するなど意図せず導入される外来種」があります。それぞれに応じた予防対策を実施することで、侵略的な外来種の侵入を防止します。

ヒアリの侵入監視モニタリング
ヒアリ侵入を監視するため、港湾周辺でトラップによるモニタリングを実施している

3 防除の推進

すでに県内に侵入・定着している外来種のうち、生物多様性への影響が大きいと考えられる種については、捕獲等による防除を実施します。外来種の防除では、基本的には外来種の個体数をゼロにする根絶を目指しますが、技術的・経済的に根絶が困難と予想される場合は、分布の拡大を制御するなどの被害低減を目指した取組を実施します。

探索犬によるマングースの探索
やんばる地域からのマングースの排除を目指して捕獲による防除事業を実施している

図 2-2-1.3　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）p.2（指針概要）

沖縄県では、県内への定着状況、生態系等への影響を考慮して、沖縄県対策外来種リストを策定しました。令和元年７月現在、特に対策が必要なものとして、重点対策種１４種、重点予防種６種、産業管理外来種３種が指定されています。

アメリカハマグルマ

緑化用に導入された植物。繁殖力が強く、県内各地で繁茂しており、他の植物の生育環境を奪っている。根や茎から再生するので、駆除する場合には根ごと抜き取り、抜き取った植物体を放置せず確実に処分する必要がある。

ノイヌ

野生化したイヌ。もともとはペットや猟犬、もしくはその子孫。ヤンバルクイナなどの希少種を含む在来動物に大きな影響を与えていると考えられており、人を襲うこともある。

タイワンハブ

1970年代～1990年代に、ヘビのショーや酒用として大量に輸入されていた。現在は特定外来生物に指定されており、原則輸入は禁止されている。ハブの仲間なので毒があり、人が咬まれることもある。名護市周辺で増えており、民家周辺ではハブよりタイワンハブが捕獲されることの方が多い。ハブより小型で、模様が異なる。在来動物の捕食や在来ヘビとの競合、在来ハブとの交雑も懸念されている。

重点対策

影響が大きく、重点的に対

コウライキジ

中国東南部・朝鮮半島原産。首に白い部分があるのが特徴。本州～九州では、在来のキジとの交雑が問題になっている。もともとキジのいない沖縄県では農業被害が問題になっているほか、在来の鳥との競合も懸念されている。

インドクジャク

広げた尾羽が美しく、丈夫で飼いやすいため、観賞用として飼育されることが多い。石垣島や小浜島、黒島など八重山諸島で野生化しており、飼育個体が逃げ出したと考えられている。西表島でも確認されたことがある。在来の昆虫や爬虫類、小鳥類への影響が懸念されている。

ツルヒヨドリ

英語で「Mile-a-minute-weed」（1分で1マイル広がる雑草）の異名を持つ植物。つる性で成長が非常に早く、他の植物に覆いかぶさるように繁茂する。日本では、1984年に沖縄県うるま市で初めて確認され、分布が広がっている。駆除する場合には、根ごと抜き取り、放置せず確実に処分する必要がある。特定外来生物。

サイカブト

「タイワンカブト」とも呼ばれる。外来種として世界各地に定着しており、ヤシ類の害虫として知られている。沖縄でも県内各地に侵入しているが、特に大東諸島においては、ダイトウオオコウモリなどの希少生物の生息にとって重要なヤシ科のダイトウビロウに影響を与えている。

図 2-2-1.4　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）p.3（重点対策種）

フイリマングース

一般に「マングース」と呼ばれることが多い。ハブ退治等のために持ち込まれたが、実際はハブより簡単に捕まえられるヤンバルクイナなどを襲い、絶滅の危機に追いやっている。県内ではいくつかの島に持ち込まれたが、現在でも確認されているのは沖縄島のみ。沖縄島北部では駆除が進んでおり、野生動物も回復し始めている。

オオヒキガエル

8～15cmの大きなカエル。動きは鈍いが強い毒があり、本種を食べたイヌが死んでしまうこともある。そのため、本種を食べるヘビや鳥などの在来動物への影響が心配されている。また昆虫をはじめとするさまざまな小型動物を捕食する。石垣島や大東諸島で野生化しており、西表島でも目撃例がある。定着した場合、イリオモテヤマネコ等への影響が懸念される。特定外来生物。

重点対策種

対策を実施する外来種

ノネコ

野生化したネコ。もともとは逃げ出したか捨てられたペット、もしくはその子孫。やんばるでは、ヤンバルクイナなどの希少な動物を襲うこともある。西表島では、イリオモテヤマネコへのネコエイズの感染も心配されている。

ニホンイノシシ（イノブタを含む）

本州～九州原産のニホンイノシシやイノブタ（イノシシとブタの雑種）が、県内各地に持ち込まれ野生化しており、在来のリュウキュウイノシシとの交雑が疑われている。リュウキュウイノシシが生息していない慶良間諸島では農業被害が問題になっており、在来の両生類などへの影響が懸念されている。

ニホンイタチ

ネズミ駆除等の目的で宮古島や座間味島などに持ち込まれたが、希少な爬虫類などを食べてしまうことが問題になっている。もともとは本州～九州に生息する日本固有種。本来の生息地では、外来のチョウセンイタチによって減少している。

タイワンスジオ

無毒のヘビだが、日本産のどのヘビよりも大型になり、普通は全長2mを越え、最大2.7mにも達する。沖縄島中部に生息しており、分布は拡大している。このままやんばるに達すると、ヤンバルクイナなどの希少種を含むさまざまな在来動物に影響を与えることが懸念されている。特定外来生物。

グリーンアノール

きれいな緑色のトカゲだが、状況によって色が変わり、茶色い場合もある。オスはデュラップと呼ばれるピンク色ののど袋をもち、求愛や威嚇のために扇状に広げる。デュラップは普段はたたまれており見えない。沖縄県では、1989年に沖縄島で初めて確認され、現在では座間味島にも定着している。小笠原諸島では数々の固有昆虫を絶滅の危機に追いやっているといわれており、沖縄でも同様の被害が生じることが心配されている。特定外来生物。

図 2-2-1.5　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）p.4（重点対策種）

図 2-2-1.6　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）p.5（重点予防種）

図 2-2-1.7　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）p.6（産業管理外来種）

ペットを捨てないで

沖縄県が重点対策種に指定しているノイヌやノネコは、野生化したイヌやネコのこと。もとをたどれば誰かに飼われていたイヌやネコです。同じく重点対策種のインドクジャクは、観賞用として飼われていたものが逃げ出したといわれています。グリーンアノールの導入経路ははっきりしていませんが、ペットとして流通していました。また、重点予防種のアライグマとカミツキガメも、かつては人気のあるペットでした。小さいうちはいいのですが、気が荒く、大きくなると手に負えなくなることから、捨てられることが少なくなかったと考えられています。

人間に飼われ、捨てられたり逃げ出したりした生き物が、在来の生物を脅かし、ときには絶滅の危機に追いやっています。それを食い止めるために、人間によって駆除されています。

ペットを捨てないでください。ペットが逃げ出さないようにすることも、飼い主の責任です。これから飼おうと思っている人は、最後まで本当に面倒をみることができるのか、よく考えてください。イヌやネコはもちろん、魚も昆虫も、植物も同じです。

沖縄県外来種対策指針
https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/gairaisyutaisakushishin.html

沖縄県対策外来種リスト
https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/taisakugairaisyu-list.html

沖縄県外来種対策指針 概要
令和元年（2019年）7月発行

沖縄県環境部自然保護課　〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 行政棟４階　TEL: 098-866-2243
（制作）一般財団法人沖縄県環境科学センター

沖縄県

図 2-2-1.8　沖縄県外来種対策指針概要（パンフレット）裏表紙

(2) イベント出展

県民への外来種問題の普及啓発を目的として、下記の通り外来種対策事業としてイベント出展を行った。沖縄島、石垣島、宮古島の主要 3 島それぞれのイベントで出展した。

a) 「夏休みこども自由研究 2019」への出展

a-1 イベント概要

開催日時：2019 年 8 月 3 日(土)・8 月 4 日(日) 10:00～18:00

開催場所：沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）

主催：沖縄観光コンベンションビューロー・琉球朝日放送

概要：様々な企業が出展する自由研究イベント。来場者数は、毎年 17,000～30,000 人超の実績がある。

a-2 出展内容

① ヒアリをみてみよう

ヒアリの特徴を解説し、顕微鏡で実際にヒアリを含むアリの標本を観察してもらい、ヒアリを見分けてもらった。身近なアリに興味を持ってもらい、ヒアリを同定できるようになってもらうことがねらい。

② 外来ハチの工作体験

セイヨウオオマルハナバチ・クロマルハナバチ・セイヨウミツバチの実物標本と、画用紙等を用いて、トマトの花に訪花するハチを工作してもらった。農業利用されるハチがいること、正しく管理されなければそれが問題になってしまうことを学んでもらうことがねらい。

③ さがしてみよう！沖縄県の外来種

沖縄県の重点対策種・重点予防種・産業管理外来種を実物大で印刷したパネルの中から、それぞれの種を探し出してもらうゲーム。チェックシートに各種の特徴と問題について簡単な説明文を記載し、楽しみながら外来種について学んでもらえるようにした。

④ がいらいしゅぬり絵

重点対策外来種のぬり絵。上記体験の難しい小学校低学年以下の子供に、楽しみながら外来種について知ってもらうことがねらい。

⑤ 外来種の生体展示

身近に外来種がいることを知ってもらうために、グッピー、ソードテール、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメの生体を展示した。また同じ種でも地域によって違いがあり、他の地域のものは問題になってしまうことを示すために、沖縄産のオキナワカブト、クメジマカブトと、本土産カブトの生体を展示した。

⑥ シール・ステッカー

上記体験の景品として、外来種のシールとステッカーを作成し、配布した。

図 2-2-1.9　「さがしてみよう！沖縄県の外来種」の実物大パネル

図 2-2-1.10　シールとステッカー

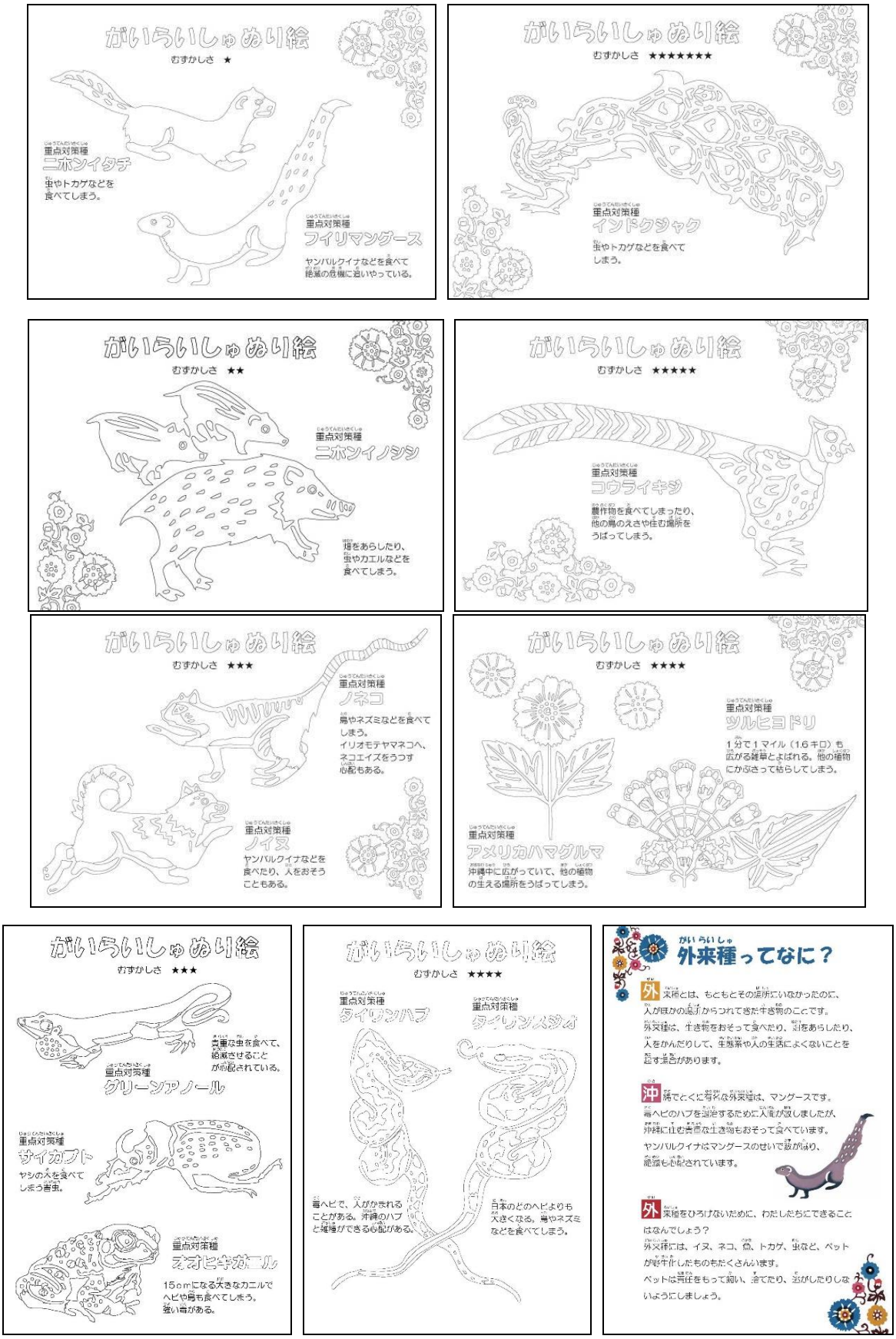


図 2-2-1.11　がいらいしゅぬり絵

a-3 アンケート

① 実施方法

下記の通り、大人用と子供用のアンケート用紙を作り、来場者に配布して意識調査を行った。

QAB 夏休みこども自由研究　「沖縄県の外来種、大集合！？」
アンケート（大人用）

Q１　もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを「外来種」といいます。
今日、会場を訪れる前、あなたは「外来種」という言葉を知っていましたか、それとも知りませんでしたか？　（ひとつ選んでください）

- □ 外来種という言葉の意味を知っていた
- □ 外来種という言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった
- □ 今日、初めて外来種という言葉を知った
- □ わからない

Q２　沖縄県内では、さまざまな外来種対策が行われています。
例えば、沖縄の生態系を守るために、マングースを捕獲するなどの対策事業が実施されています。また、ヒアリの県内への侵入を防ぐため、港などで調査が行われています。
今日、会場を訪れる前、あなたは、このような外来種対策を沖縄県が実施していることを、何かひとつでも知っていましたか、それとも知りませんでしたか？　（ひとつ選んでください）

□ 知っていた　□ 知らなかった　□ わからない

Q３　このブースでの体験を通じて、あなたの外来種についての理解が深まりましたか？
（ひとつ選んでください）

□ 理解が深まった　□ 理解は深まらなかった　□ わからない

Q４　このブースのどの体験がもっとも印象に残りましたか？
（当てはまるものをすべて選んでください）

□ ヒアリを見てみよう　□ がいらいしゅぬりえ　□ 外来のハチの工作体験
□ 実物大パネル　□ 生き物の展示　□ シール・ステッカー
□ その他（　　）　□ 印象に残った体験はなかった　□ わからない

Q５　今日のブースでの体験から感じたことを教えてください。
（当てはまるものをすべて選んでください）

- □ 飼育している動物を捨てない、逃がさないようにしようと思った
- □ 栽培している植物を自分の敷地の外に植えないようにしようと思った
- □ 外来種について、もっと学びたいと思った
- □ 外来種対策のイベント（外来植物の駆除など）に参加してみたいと思った
- □ 特に感じたことはなかった
- □ その他（　　）
- □ わからない

図 2-2-1.12　アンケート用紙（大人用）

QAB 夏休みこども自由研究　「沖縄県の外来種、大集合！？」
アンケート（こども用）

Q0 あなたは何年生ですか？

□1 年生　□2 年生　□3年生　□4年生　□5年生　□6年生　□中学生　□その他（　　）

Q1 もともとその場所にいなかったのに、人間の活動でほかの場所から入ってきた生物のことを「外来種」といいます。
今日、会場に来る前、あなたは「外来種」という言葉を知っていましたか、それとも、知りませんでしたか？　（ひとつ　えらんでください）

□ 外来種という言葉の意味を知っていた
□ 外来種という言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった
□ 今日、はじめて外来種という言葉を知った
□ わからない

Q2 沖縄県では、いろいろな外来種対策が行われています。たとえば、生態系を守るためにマングースをつかまえたり、ヒアリが入ってこないために港で調査をしています。
会場に来る前、あなたは沖縄で外来種の対策が行われていることを、ひとつでも知っていましたか、それとも、知りませんでしたか？　（ひとつ　えらんでください）

□ 知っていた　□ 知らなかった　□ わからない

Q3 このブースで、外来種について学ぶことができましたか？　（ひとつ　えらんでください）

□ 学ぶことができた　□ 学ぶことはできなかった　□ わからない

Q4 このブースのどの体験が心に残りましたか？　（あてはまるものを　すべてえらんでください）

□ ヒアリを見てみよう　□ がいらいしゅぬりえ　□ 外来のハチの工作体験
□ 実物大パネル　□ 生き物の展示　□ シール・ステッカー
□ その他（　　）　□ 心に残った体験はなかった　□ わからない

Q5 このブースでどんなことを思いましたか？
（あてはまるものを　すべてえらんでください）

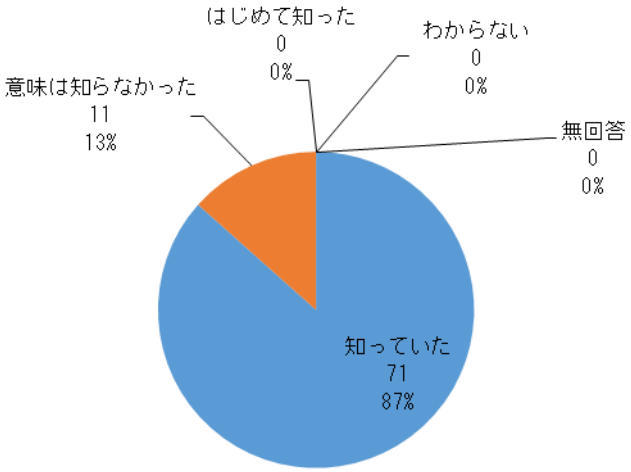
□ 育てている動物や植物を、捨てない、逃がさないようにしようと思った
□ 外来種のことを、もっと学びたいと思った
□ 外来種対策のイベント（外来植物の駆除など）に、参加してみたいと思った
□ 特に思ったことはなかった
□ その他（　　）
□ わからない

図 2-2-1.13　アンケート用紙（子供用）

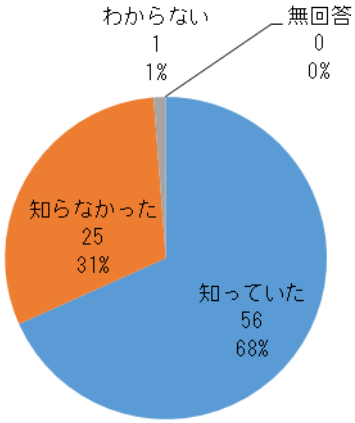
② アンケート結果

大人用 82 枚、子供用 25 枚のアンケートを回収した。結果は以下に示す。

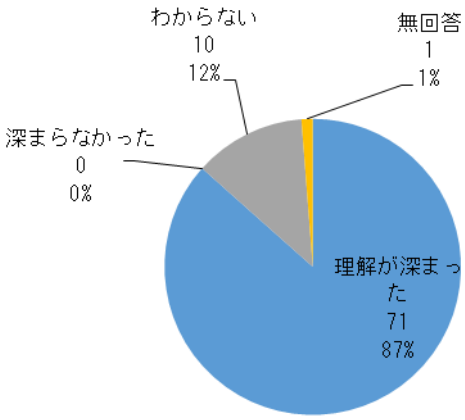
Q１　もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを「外来種」といいます。今日、会場を訪れる前、あなたは「外来種」という言葉を知っていましたか、それとも知りませんでしたか？（ひとつ選んでください）



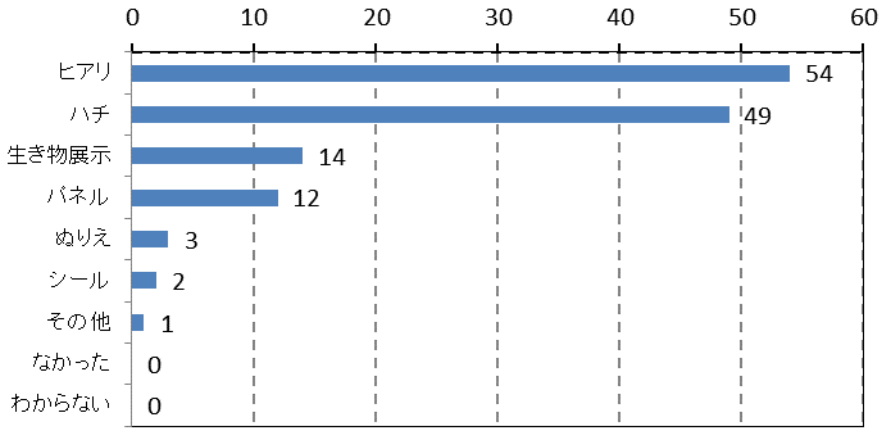
Q２　沖縄県内では、さまざまな外来種対策が行われています。例えば、沖縄の生態系を守るために、マングースを捕獲するなどの対策事業が実施されています。また、ヒアリの県内への侵入を防ぐため、港などで調査が行われています。今日、会場を訪れる前、あなたは、このような外来種対策を沖縄県が実施していることを、何かひとつでも知っていましたか、それとも知りませんでしたか？（ひとつ選んでください）



Ｑ３　このブースでの体験を通じて、あなたの外来種についての理解が深まりましたか？
（ひとつ選んでください）

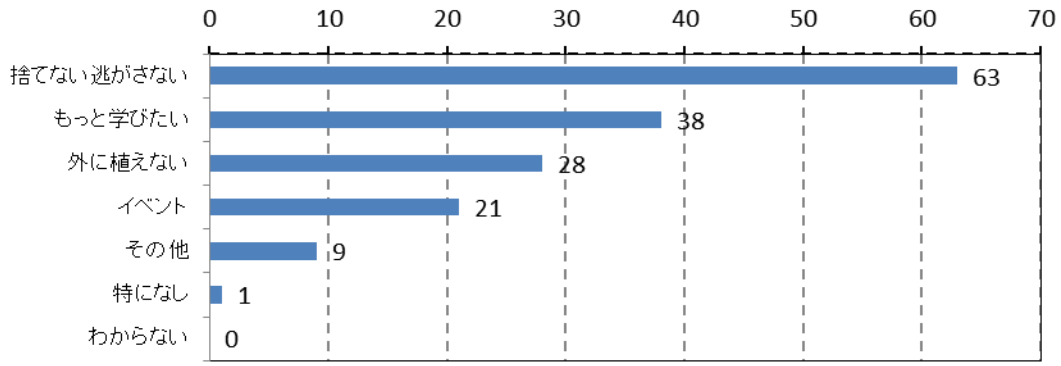


Ｑ４　このブースのどの体験がもっとも印象に残りましたか？
（当てはまるものをすべて選んでください）



その他：ザリガニ

Ｑ５　今日のブースでの体験から感じたことを教えてください。
（当てはまるものをすべて選んでください）



その他：子どもにリアルに伝えやすい。ヒアリを実際に見られたのは、子どもに良かった。外来種で工作も良いアイデア！

でおもしろかった。沖縄で行う意味も考える機会になる！

ニュースで見たことあるヒアリについて詳しく勉強できた。

子供達のヒアリに対しての勉強ができると良いと思います。昆虫が好きな子供はヒアリに対し関心が強いと思います。

在来種の保護は大切だと感じる

ヒアリがどういうアリか見れて勉強になりました。

子供にはとても良い体験になったと思います。

無意味な植物採取をしないよう、させないように気をつけようと思いました。

動物だけでなく植物も気をつけようと思った

顕微鏡で実際にヒアリを見てみると、思ってたよりも区別むずかしいんだなぁと思いました。とても勉強になりました

a-4 まとめと課題

- イベント全体の来場者数は 29,987 人にのぼり、外来種のブースにも絶えず来場者があった。
- アンケート結果から、特に印象に残ったという回答が多かったのは、ヒアリの観察とハチの工作体験だった。もともとこの 2 つが主内容だが、やはり展示より体験の方が印象に残ることがわかる。
- 生体展示は、アンケートでは印象に残ったという回答は少ないが、ブースの前面に配置したことで大人子供ともに目をひかれて立ち止まる人は多かった。生体展示に見入っている人に声をかけて他のコンテンツに誘導することができた。
- ヒアリは 2017 年に話題になったが、今年はほとんど報道されていない。しかし、他の外来種に比べるとやはり関心が高いことがうかがえた。
- ハチの工作体験に用いたセイヨウオオマルハナバチとクロマルハナバチは、JA おきなわの方に提供いただいた使用後の巣箱から入手した。今後も関連団体と連携・協力して普及啓発等を進められると良い。
- 高学年の兄・姉がヒアリの観察やハチの工作体験をしている間、低学年の弟・妹に塗り絵で遊んでもらうことで、親の負担を減らし、オペレーションを楽にすることができた。
- ハチの工作体験はつきっきりで教える必要があり、オペレーションが難しかった。高学年なら読めば一人でできるような説明書のようなものがあれば良かったと思う。
- ブースが縦に長く、奥の壁に貼りだした実物大パネルが目立たなかった。スペースもあまりなく、活かせなかった。
- ファミリー向けのイベントでは外来種について詳細に解説することは難しいが、関心を持つきっかけにしてもらうことは可能である。

b）「エコライフ 2019」への出展

b-1 イベント概要

開催日時：2019 年 11 月 16 日（土） 10:00～17:00

開催場所：石垣市総合体育館（石垣市）

主催：沖縄県

概要：毎年県内で場所を変えながら開催される県民環境フェア。

b-2 出展内容

① ヒアリをみてみよう

「夏休みこども自由研究 2019」と同様の内容。

② 外来種をさがせ！

「夏休みこども自由研究 2019」の「さがしてみよう！沖縄県の外来種」と同様の内容だが、チェックシートにシルエットを入れ、デザインを修正した。

③ ぬりえでまなぼう！石垣島の外来種

「夏休みこども自由研究 2019」の「がいらいしゅぬり絵」と同様だが、特に石垣島の外来種にフォーカスし、インドクジャク、オオヒキガエル、コウライキジ、さらに侵入を未然に防ぐべき外来種としてグリーンアノールのぬり絵を作成し、自由に遊んでもらえるようにした。

④ アノールくん着ぐるみ

グリーンアノールの普及啓発用に作成された着ぐるみを置き、来場者に着てもらえるようにした。

⑤ 解説パネル

「外来種のこと、ちゃんと説明できますか？」「沖縄県の外来種対策」「沖縄県対策外来種リスト掲載種紹介」の 3 枚の解説パネルを作成し、展示した。

⑥ 外来種関連の本の紹介

外来種関連の本を置き、自由に読んでもらえるようにした。

⑦ 外来種紅型の展示

昨年度業務で普及啓発用に作成した重点対策種の紅型を展示した。